(財)財務会計基準機構会員

平成21年2月20日

各 位

上場会社名　株式会社 ドクターシーラボ
代表者　代表取締役社長 石原 智美
(コード番号　4924)
問合せ先責任者　常務取締役 佐藤 忠昭
(TEL　03-6419-2540)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年9月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年7月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,430	2,325	2,325	1,170	4,306.28
今回発表予想(B)	12,040	2,390	2,370	1,260	4,615.55
増減額(B-A)	△1,390	65	45	90	―――
増減率(%)	△10.3	2.8	1.9	7.7	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年7月期第2四半期)	10,730	2,368	2,347	1,114	4,053.01

平成21年7月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,100	4,500	4,500	2,500	9,201.46
今回発表予想(B)	24,820	4,530	4,510	2,500	9,157.84
増減額(B-A)	△1,280	30	10	0	―――
増減率(%)	△4.9	0.7	0.2	0.0	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年7月期)	21,618	3,817	3,823	2,104	7,677.49

平成21年7月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,870	2,290	2,290	1,108	4,078.09
今回発表予想(B)	11,746	2,380	2,350	1,180	4,322.50
増減額(B-A)	△1,124	90	60	72	―――
増減率(%)	△8.7	3.9	2.6	6.5	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年7月期第2四半期)	10,311	2,368	2,346	996	3,622.69

平成21年7月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	25,100	4,450	4,450	2,400	8,833.40
今回発表予想(B)	24,300	4,500	4,480	2,400	8,791.53
増減額(B-A)	△800	50	30	0	―――
増減率(%)	△3.2	1.1	0.7	0.0	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年7月期)	20,918	3,819	3,859	1,907	6,957.28

修正の理由

(1)連結業績予想の修正の理由

(第2四半期累計期間の業績予想)

売上高は、国内の卸販売を通じた店頭販売や対面型店舗販売が、消費動向悪化の影響を受け、想定通りの売上を上げることが出来なかったと同時に、台湾や米国といった海外の進出地域における景気の悪化に加え、各地域通貨の円高傾向により円換算額が減少したことがあいまって、上記の通り予想を下回る見込みです。

営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、売上高の進捗に応じた広告宣伝費の支出管理や、会報誌・ダイレクトメールの発送費用の削減、IT関連のアウトソーシング費用やコンサルティング費用などの削減に努めたことにより、上記の通り予想を上回る見込みです。

(通期の業績予想)

引き続き厳しい経営環境が予想されますが、売上高は、国内においては通信販売が好調であること、また卸販売では新たな施策を計画していることなどから、回復傾向に向かう見込みではありますが、海外においては、第2四半期までの状況が継続すると予想されるため、上記の通り当初予想の売上高を下回る見込みです。

営業利益、経常利益につきましては、将来を見据えたマーケティング費用の支出と売上に応じたコスト管理のバランスを取ることを引き続き徹底するため、上記の通り予想を上回る見込みです。

当期純利益については、変更はございません。

(2)個別業績予想の修正の理由

(第2四半期累計期間の業績予想)

売上高は、卸販売を通じた店頭販売や対面型店舗販売が、消費動向悪化の影響を受け、想定通りの売上を上げることが出来なかったことにより、上記の通り予想を下回る見込みです。

営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、売上高の進捗に応じた広告宣伝費の支出管理や、会報誌・ダイレクトメールの発送費用の削減、IT関連のアウトソーシング費用やコンサルティング費用の削減に努めたことにより、上記の通り予想を上回る見込みです。

(通期の業績予想)

引き続き厳しい経営環境が予想されますが、売上高は、通信販売が好調であること、また卸販売では新たな施策を計画していることなどから、回復傾向に向かう見込みであります。しかしながら第2四半期までの当初予想を下回った金額を回復させるには至らず、上記の通り当初予想の売上高を下回る見込みです。

営業利益、経常利益につきましては、将来を見据えたマーケティング費用の支出と売上に応じたコスト管理のバランスを取ることを引き続き徹底するため、上記の通り予想を上回る見込みです。

当期純利益については、変更はございません。

(注)この資料に記載しております業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上